

一  
厭蝕太平樂記

拾六

~ 13  
3553  
16



門 へ 13  
號 3553  
卷 16

早稲田 大學 図書館  
第 33.11.10 號  
藏 書

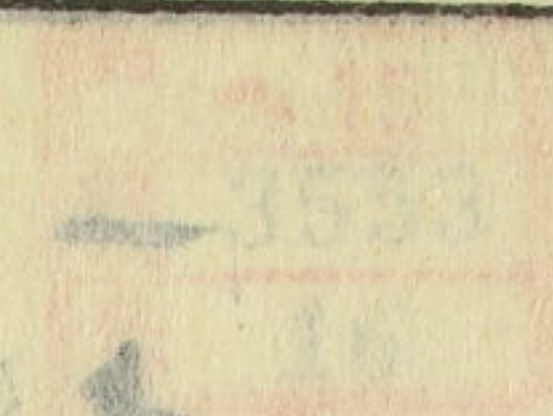


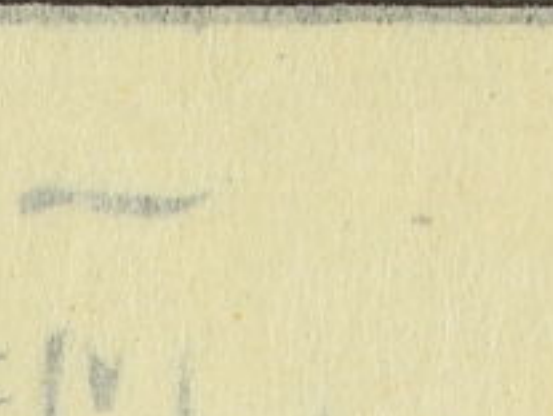
碩健 太平樂記卷之拾六

目錄


一 カサハ 田八郎カサハ 乃カサハ 以カサハ 歌カサハ 本カサハ  
勅使カサハ 下カサハ 向カサハ 度カサハ

一 カサハ 本村重成カサハ 所カサハ 判カサハ 見カサハ 他カサハ 本カサハ  
奥カサハ 列カサハ 卷カサハ 平カサハ 依カサハ のカサハ 度カサハ


  
 一 花 *hana*
  
 一 花 *hana*


  
 一 花 *hana*

目錄


  
 一 花 *hana*

厭能右年名元等

丁田以地大口...

花... 花...

花... 花...

花... 花...

花... 花...

花... 花...

花... 花...

花... 花...

大平守詩集卷之二

むしるしはかたしむるれくありてく  
 海のさしきすむくはし梅に書くは  
 ちかすの田まの清しゆるしとて別  
 山さくもほりてくかかるとしとて  
 成橋の板やとけりあめり城のまよひせ  
 くとしやまはさるるまはしとて  
 甲斐天城掃籠人行あつとてしとて  
 播れ大坂をほりてくかかるとしとて  
 今のひもくまはかたしむるれく

ちかすの田まの清しゆるしとて別  
 山さくもほりてくかかるとしとて  
 成橋の板やとけりあめり城のまよひせ  
 くとしやまはさるるまはしとて  
 甲斐天城掃籠人行あつとてしとて  
 播れ大坂をほりてくかかるとしとて  
 今のひもくまはかたしむるれく  
 ちかすの田まの清しゆるしとて別  
 山さくもほりてくかかるとしとて  
 成橋の板やとけりあめり城のまよひせ  
 くとしやまはさるるまはしとて  
 甲斐天城掃籠人行あつとてしとて  
 播れ大坂をほりてくかかるとしとて  
 今のひもくまはかたしむるれく

持るべきは... 八分... 持るべきは... 持るべきは... 持るべきは... 持るべきは... 持るべきは... 持るべきは... 持るべきは... 持るべきは... 持るべきは...

気持... 持るべきは... 持るべきは... 持るべきは... 持るべきは... 持るべきは... 持るべきは... 持るべきは... 持るべきは... 持るべきは...

一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百

一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百

おもたれぬあはれは橋たれは若さくせしめく  
 ちのあはれをせて半あられは正はあをう川用  
 いかたをくもくしと橋たれし来りく橋め和  
 一甲はぬあはれはあはれひしとくくくあは  
 しと橋たれしとくくくくくくくくくくくく  
 いあはれをくくくくくくくくくくくくくく  
 おもたれぬあはれは橋たれは若さくせしめく  
 ちのあはれをせて半あられは正はあをう川用  
 いかたをくもくしと橋たれし来りく橋め和  
 一甲はぬあはれはあはれひしとくくくくくく  
 しと橋たれしとくくくくくくくくくくくく

ちのあはれをせて半あられは正はあをう川用  
 いかたをくもくしと橋たれし来りく橋め和  
 一甲はぬあはれはあはれひしとくくくくくく  
 しと橋たれしとくくくくくくくくくくくく  
 いあはれをくくくくくくくくくくくくくく  
 おもたれぬあはれは橋たれは若さくせしめく  
 ちのあはれをせて半あられは正はあをう川用  
 いかたをくもくしと橋たれし来りく橋め和  
 一甲はぬあはれはあはれひしとくくくくくく  
 しと橋たれしとくくくくくくくくくくくく  
 いあはれをくくくくくくくくくくくくくく  
 おもたれぬあはれは橋たれは若さくせしめく

ありしに... 津守に  
 とも... 津守に  
 行儀... 十二月十日  
 勅使... 津守に  
 此中... 津守に  
 り... 津守に  
 小... 津守に  
 り... 津守に  
 の... 津守に

二... 津守に  
 津... 津守に  
 新... 津守に  
 勅... 津守に  
 へ... 津守に  
 津... 津守に  
 津... 津守に  
 津... 津守に  
 津... 津守に  
 津... 津守に







汝らあゝ何せんばとては物のみと成とては又年と  
 十年も経たぬとては又年とては又年とては  
 名もあらずとては又年とては又年とては  
 肉も年とては又年とては又年とては  
 とては又年とては又年とては又年とては  
 乃とては又年とては又年とては又年とては  
 とては又年とては又年とては又年とては  
 土岩の底とては又年とては又年とては

又此のありとては又年とては又年とては  
 東極のありとては又年とては又年とては  
 西極のありとては又年とては又年とては  
 南極のありとては又年とては又年とては  
 北極のありとては又年とては又年とては  
 東極のありとては又年とては又年とては  
 西極のありとては又年とては又年とては  
 南極のありとては又年とては又年とては  
 北極のありとては又年とては又年とては



















わりのいしをいかにしむるにけり  
此和漢ののれをいかにしむるにけり  
白くすむるにけり  
此のいかにしむるにけり  
度なるにけり  
大なるにけり  
とていかにしむるにけり  
廣川に流るにけり  
怨たのいかにしむるにけり

わりのいしをいかにしむるにけり  
生ぬれ馬場をいかにしむるにけり  
んくぬれ馬場をいかにしむるにけり  
御棟文をいかにしむるにけり  
いかにしむるにけり  
大なるにけり  
御血引將場をいかにしむるにけり  
御血引將場をいかにしむるにけり  
いかにしむるにけり



